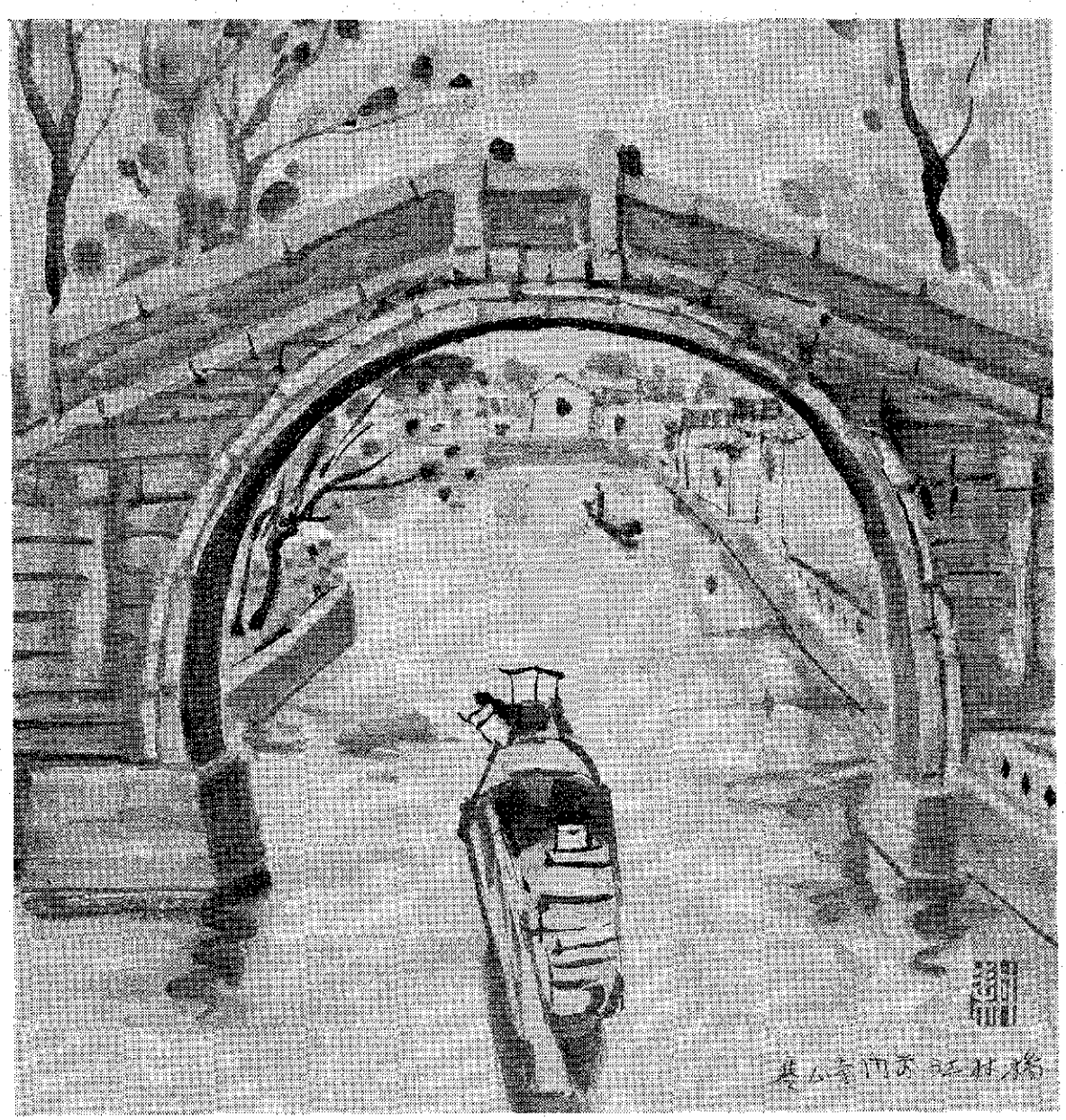
昭和33年3月15日　第3種郵便物認可　昭和59年8月15日発行（8月号）通巻378号 毎月1回15日発行

新潟県 公民館月報

昭和59年8月号

発行所　新潟県公民館連合会
【新潟市川端町2－9・県林業会館内】
【電話・新潟（0252）24－6073】【振替新潟0－4049】
発行人　会長　石井耕一
編集人　事務局長　本田　清
【定価1部 100円 〒共・年極 1,200円】



今春五月、気候の温和な蘇州を訪れた。

車窓から眺める水田や麦畑、菜種畑は、一瞬、越後平野かと錯覚するほどである。どこか日本の風土に似たものを感じ、親近感を覚える。

蘇州駅に着いて、ホテルに向う。バスの中から眺める街の第一印象は、やはり水郷の名にふさわしい。クリーク（水路）が縦横に市街地に通じている。荷物を乗せた小舟が、艄（とも）と艫（へさき）をつらねて、ゆっくり往来するさまは、蘇州ならではの情景である。

東洋のベニスとはよくいったものだ。民家の壁が水面に影を映して、どこまでも続いている。ケバケバした色彩は、全く見あたらない。それがまた、古都らしい落着いた風情をかもし出している。

唐の詩人、張継の「月落烏啼霜満天……（つきおちからすないてしもてんにみつ……）」で有名な寒山寺もここにある。

寒山寺門前の「江村橋」や「楓橋」のたたずまいは蘇州を代表する風景であろう。

絵も文も、小柳　耕司
（五泉市社会教育委員長）

住民とともに歩む公民館

小千谷市民会館に六百数十名が集う

第三十五回新潟県公民館大会は、去る七月二十六日小千谷市民会館を会場に、県内から六百数十名の参加者を集めて開催された。

夜来の雨もあがって、小千谷市街の道路は、打ち水で清めたようにすがすがしい。船岡山の緑もひときわ鮮やかで、遠来の参加者を迎えるのにふさわしい朝のたたずまいである。

参加者の大半は、車で小千谷入り。開会三十分前には、会場の大ホールがほぼ満席といった状態で、大会ムードは、早々と盛り上がりを見せた。

開会あいさつ

定刻の午前十時に、田中岬・中越地区公民館連絡協議会長（長岡市中央公民館長）の開会宣言と、「公民館の歌」の斉唱で、大会の幕が開かれた。

まず、県公民館連合会長、県公民館振興市町村長連盟会長の石井耕一と、県教育長（大島行史県社会教育課長が代読）の主催者あいさつが述べられた。

その中で石井会長は、「公民館は戦後、昭和二十一年文部次官通牒によって設置された。「寺中構想」が原点である。昭和二十四年社会教育法が施行され、三十四年に一部改正が行われ、施設基準も文部省告示で明らかになり今日に及んでいる。本年は社会教育法施行三十五周年の年であり、本大会も三十五回を数え、誠に意義深い。

全公連では二十年前に「公民館のあるべき姿と今日的指標」を公表したが、そこで示されているのは将来的指標でもあり今日も生きている。しかし、その後の社会も大きく変化してきているので、二年前から第五次専門委で検討を重ねて、この三月「生涯教育時代に即応した公民館のあり方」が答申された。

特にその中で公民館の理念を、①公民館活動の基底は、人間尊重の精神にある。②公民館活動の核心は、「国民の生涯教育態勢を確定する」にある。③公民館活動の究極のねらいは、住民の自治能力の向上にある。

この理念をふまえて、新たな生涯教育時代に対応する公民館を目指して「住民とともに歩む公民館の活動はどうあるべきか」を深め合い、稔り多い大会にしてほしい。と力強く訴えられた。

表彰式

その後表彰式が行われた。優良公民館として表彰の栄誉に輝いた公民館は、次の三館。

柏崎市北鯨石公民館
両津市公民館
西頸城郡青海町西畑地区公民館

次に、個人表彰として、長年公民館運営審議会委員・非常勤公民館職員として勤務し、公民館活動の推進に尽くされた。

西片　博（板倉市公民館）
杉澤吉吉（白根市中央公民館）
細井昭吉（加茂市公民館）
山崎弥作（与板町公民館）
坂下清晃（栄島浦村公民館）
佐藤　和（掛之内町公民館）
村松ミサ（大島村公民館）
石塚フサヲ（大島村公民館）

また、県公連の事務職員として十四年余にわたって会務の処理に尽くされて、四月末日に退職された、塩井照子さんに、感謝状と記念品が贈られた。

祝辞

次いで来賓祝辞は、まず県知事君健男殿よりのメッセージを、大島県社会教育課長が代読された。県議会議長の祝辞は、県議会総務文教委員長の高橋正殿が代読、地元小千谷市長星野行男殿の「歓迎のことば」と続いた。

基調講演

本大会の基調講演は「住民にとって公民館とは」と題して、立教大学教授、林　伸郎殿から、一時間二十分お聴きすることができた。

（要旨は次ページに掲載）

アトラクション

中食休みのあと、地元小千谷市獅子舞保存会社中の方がたによる「豊年獅子舞」が熱演され、満場の参加者から盛大な拍手が送られた。

パネル討議

午後は、NHKアナウンサー、深谷武氏の司会で、「住民とともに歩む公民館の活動はどうあるべきか」というテーマで、パネル討議が行われた。

登壇者は、小千谷市片貝町協議会長、吉田一雄氏、長岡市子ども会指導者会長　杉本嬉栄氏、北魚沼郡川口町婦人　井川敏子氏、西蒲・岩室村社会教育係長　石添義克氏、新潟大学教育学部教授、吉川弘氏、千谷市長　星野行男氏の六氏に、石井耕一会長も加わって、活発な討議が交わされた。

閉会

横東栄小千谷市教育長の閉会あいさつに続いて、佐藤貞武下越公連会長が、明年は七月二十六日新発田市で、開催したい。多数のご参加を願いたいとあいさつ。羽鳥昌治小千谷市社会教育課長の閉会宣言で、大会の全日程を終了した。

終了後、充実したすばらしい大会であったと多くの方々からの評価が寄せられた。これは、実行委を中心とした地元の方がたの周到な計画、準備、運営の結果である。心から感謝申し上げたい。

参加者が帰った後の会場には、紙屑一つ落ちていなかった。さわやかな静けさだけが残っていた。

基調講演（要旨）

「住民にとって公民館とは」

講師 立教大学教授 林 伸郎殿

公民館の歩みをふりかえって

(1) 出発点はコミセンである。公民館は、昭和二十一年の文部次官通牒によって奨励された。いわゆる「寺中講想」とは、まさにコミセンである。それを読むと、戦後の日本復興、平和日本・民主国家建設にかけた文部省の意気込みはたいへんなもの。住民の直接選挙による運営委員会が運営するなど住民とのかかわりも深かった。町村とあって市が入っていない。住民の自治意識を高めるねらいがあったと思う。

(2) 昭和二十四年に社会教育法が制定され、公民館も法的に認知された。また昭和三十四年に一部改正され、補助の道も開けた。事業を行うことが主体で、しかも、お役所的になったのではないか。公的機関になって、民主性が失われてはいないか。住民側の公民館を忘れてはならない。

(3) 社会情勢が急速に変化してきたが、公民館はどのような対応をしてきたなろうか。核家族化、長寿化、労働時間の短縮、家事の合理化、食生活の改善、余暇の増大価値観の多様化、学歴水準の向上受験戦争など、物質面の豊かさの反面、精神面の貧しさが指摘される。

変化した住民の学習要求高まる

(1) 昭和四十年にユネスコの提唱もあって、近年、生涯教育への関心が高まってきている。卒業のことを英語では「グラジュエーション」（終わる）ともいうが、もう一つ「コメンスメント」（始まる）ともいう。卒業を社会人としての始まりと考えたい。余暇の増大など社会情勢の変化と住民の学習要求の高まりに、公民館はどう対応してきたであろうか。

(2) 一方大都市を中心に、新聞社、NHK、デパートなどが「講座」を開設、地方都市へと波及している。民間の教育産業花ざかりである。金になるものには飛びつく。これらの動きを公民館はどう考えたらよいのか。

住民にとって公民館とは

(1) 基本的には、社会教育とは何かを考えなければならない。学校教育は、人生の一定期間を担当する。しかも、免許状をもった教師が検定された教科書を使って、「教える」のであり、「教わる・習う」のである。

社会教育は、自ら学ぶ。上から与えられるものではない。問題意識、目的意義をもって積極的、能動的に学習する。その場所と機会を提供するのが公民館である。民間はそこまでいかない。住民としての自治意識、よりよい地域をつくる問題意識を高めるという理念を持ちたい。また、住民がいつまでも公民館に寄りかかるのではなく、やがて離れ自立していくもの。

(2) ハコモノは行政がつくる。運営は住民の手で、柏崎のコミニティ方式は評価したい。コミセンは公民館の敵というのは残念なとらえ方である。

生涯教育は、教育委員会の枠を越え一般行政でも行われている。公民館は、あくまでも住民の側に立って、行政や関係の機関施設と連携を密にして、これからの活動を推進してほしい。

基調講演の林伸郎立教大学教授

メッセージ

豊かな地域づくりに期待

新潟県知事 君 健男殿

本日ここに、第三十五回新潟県公民館大会が開催されるに当たりひとことお祝い申し上げます。

公民館がこれまで社会教育の中核として、また、地域づくりの要としての役割を果たしてこられましたことは、ひとえに、その活動の推進に、日夜ご努力されてこられた皆様方の、ご労苦のたまものと深く敬意を表します。

ご承知のとおり、今日の変動する社会情勢の中で、県民の生活意識や生活様式等は大きく変化し、学習要求も多様化し高度化してきております。

とりわけ公民館については、地域住民の生活課題や文化的教養等の学習要求にこたえる社会教育の中核施設として、その期待がいっそう高まってきております。

このような時に「住民とともに歩む公民館活動はどうあるべきか」の主題のもとに、公民館活動の今後のあり方を究明されますことは、まことに時宜を得たものと存じます。

皆様方のこれまでの貴重な経験と高い識見により、この大会が所期の目的を達成されますとともに、今後いっそうのご精進とご活躍により、豊かな地域づくりがさらに進展いたしますよう祈念して、お祝いのことばといたします。

公民館番頭日記 (38)

まず館長自身が燃えなくては……

さる八月十日、本年度三回目の全市公民館長会議が開かれ、あわせて研修が行われた。

この研修では、さる七月二十六日小千谷市で開かれた、第三十五回県公民館大会に参加した人たちの所感発表を中心に、熱心な話し合いが行われた。そのひとつに「館長のあり方、役割、待遇」があった。

以下その発言の一部を卒直に紹介してみたい。

○

。大会に参加して、館長自身が住民とともにあったか、との反省をさせられた。

。非常勤館長だが、積極的にやろうと思って毎日出勤すると、あれは暇人だからなどと言われる。

。館長は、職員が仕事をやり易いように、条件整備をすることが大切だと思っている。

。非常勤館長とは言え、現在の報酬は余りにも低すぎる。

。館長の仕事は、地域への礼奉公のつもり。高い報酬では住民に物が言いにくくなる。

。非常勤館長で報酬が低いのだから、その報酬にふさわしい仕事だけしていればよいのだという気持があっては…。

。職員の士気と意識が、公民館活動振興の鍵だと言われるが、その職員のトップリーダーである館長自身が、まず燃えなくては職員が燃えるはずがない。

。公民館長には、館長にふさわしい待遇がなければならない。

○

柏崎市では現在、昭和七十年度を目標年次とする「新長期発展計画」の策定が進められている。

この新長期発展計画での公民館の課題は、昭和六十年度を目標年次とする現在の長期発展計画により、着実に施設整備が進められてきた公民館・コミュニティセンターに、〝いかに血をかよわせ魂を入れるか〟である。そのための人的体制の整備充実こそ課題であると私は考えている。

県大会に参加できなかった私は、館長さんたちの卒直で熱心な発言を聞きながら、第三十五回県大会の成功を思った。

（柏崎市中央公民館 参事兼事務長 徳間助夫）

大会参加の記

第三十五回新潟県公民館大会に参加された六百数十名の中から、無作為で三十五名の方に感想文をお願いしたところ、二十五名の方から原稿をお寄せいただきました。本号と次号に分けて、ご紹介します。

「すばらしかった パネル討議」

兼田　宣二

一方、星野小千谷市長さんは行政責任者の立場から、時代の進運を正視しながら住民の教育的要求を正確に捉え、その学習活動を援助したい。更に、民間カルチャアセンターなどを含めたあらゆる教育施設を住民の側に立って点検し、競合やくい違いを排除して地域社会の中心的役割りを果たすことが必要だと提言された。

この両先生のご発言は、全公連第五次専門委員会答申の中で述べている（―公民館は―）

- 生活を学び創造する生活教育の代表的機関
- よく知り、よく判断するための情報提供機関
- 地域社会での生活を発展させるための実践拠点

という性格をより明らかにし、公民館は、地域の実態を究明して具体的な活動計画を立案しなければならない、としたことを確認するに十分なご発言であり、ご説明であったと思う。

（北蒲原郡中条町公民館運営委員）

吉川教授の発言に感銘

岩澤　重雄

ややもすると主題からそれそうになる発言を、さりげなく軌道にもどす技術と、発表の内容に敬服しながら拝聴した。

新潟大学吉川弘教授は、公的機関の行う学級と、民間団体や企業等が開催する講座について、参加者の反応や意識調査の結果を具体的な項目・数字をあげて説明されたが、大変わかりやすく、又今後の方向づけとしても興味があり、深く考えさせられた。

公民館長という大役を引きうけて三年になるが、まだまだわからないことだらけである。公民館は社会教育の窓口であるといわれているが、社会教育のうけもつ活動範囲があまりにも多い。

この活動分野をすべて公民館で実践するとなると大変なことになる。一ツは財政の問題であり、一ツは職員の問題で、容易なことではないと思う。

木大会のテーマが、住民と共に歩む公民館活動はどうあるべきかということは、公民館活動の原点をついたものと思われる。

木大会のハイライトは基調講演とパネル討議であったが、中でもパネルマン、吉川　弘教授の提言「生涯学習時代の到来と公民館の対応」についての発表内容に同感した。

要は公民館の行なう生涯学習講座等は、参加する人の期待に応えるものでなければならない。すなわち期待よりも良ければ人は集まり、期待はずれであれば人は集まらない。

公民館は役所ではない、住民と共に考え、共に歩む公民館としての運営されなければならない。容易ではないが、今後の公民館活動のあり方に、新らしい抱負をいだいて進みたいものと思う。

（岩船郡朝日村公民館長）

住民との橋渡し役

佐藤　玲子

推進員として公民館大会に参加する機会を得ましたことは幸いと思います。

今回の大会では「魅力ある公民館活動とは何か」が大きな討議の中心課題となり、非常に内容の濃い有意義な大会でありました。

また立教大の林先生は、親の子ばなれを心がけ、自分の趣味教養を身につけるよう、生涯教育について、いろいろの角度からの話はこの大会ならではのものでした。

私たち推進員は、公民館と地域住民との橋渡しとして各種事業に参画し、地域公民館事業の内容を知ってもらうべく活動をつづけておりますが、一般の方々の関心がうすく、公民館活動の重要性を認識されていないのが現状です。

それには効果的な広報活動により、更に公民館活動を活発化することが必要だと思われます。また私達は公民館を充分に活用し、仲間づくりを基礎として輪を広げていくには、推進員が骨身を惜しまずに、自主的に奉仕的協力者としての心構えを十分認識しなければならないと思いました。

（上越市公民館推進員）

分館活動を中核に

高橋　啓作

新潟県公民館大会は、県公連最大の祭である。祭だから皆も大鼓もというわけではないが、心にくい入るものであってほしい。しかし祭なるが故に自由な発想が許されず、形式的にならざるを得ない事も事実である。

私の場合は幾分事情が違った。幸い優良公民館に選ばれ、その表彰式に参列という意味があったからである。申請理由の中で、私が最も大切に考えているのは、本館と分館（五一の部落公民館）の一体的な活動と、分館が地域の課題と取組む事の指導協力体制の推進であった。

その点、パネル討議の多くの発言の中で、特に吉田一雄氏の提言に共感を持つものである。公民館活動を地域づくりの中核に――そして分館活動こそ公民館活動の中核なのでなかろうか。公民館活動が経済的にも文化的にも、地域を興す運動であることを強調したい。

（両津市公民館長）

公民館を地域づくりの核に

風間　栄光

今回第35回新潟県公民館大会に参加する機会を得た。基調講演やパネル討議の中から公民館活動の歴史的あゆみ、問題点、今日的課題の多くを学ぶことができた。その中で最も深く感じた点を二点ばかり述べたいと思う。

㈠　ある調査で公民館が行う学級講座を希望する割合が高い反面、参加者が減少している…ということに注目させてくれた。

㈡　「公民館を地域づくりの核に……」と訴えておられた。私も公務外の世界で地域づくり活動に足を踏み込んでいる「もう一人の自分」を持っているが、公民館活動と大きなかかわりがあることをこの大会に参加して深く感じた。

公民館活動は「仲間づくり」「人づくり」「地域づくり」といった目標に向ってさらに精進しなければ……と意を強くさせられた大会であった。

（十日町市公民館副館長）

パネル討議方式は望ましい運営の一つではあるが、多くの参会者の自由な発言の機会を圧縮する欠点のあることを誰もが気付いたと思う。私は、もっと土くさく、泥くさい発言の中に盛り上りのある分科会方式に賛成である。

それから県公連の中に「研究集団」のようなものがあって、その常時活動の中から大会が生まれる――指導研究体制を確立すべきでなかろうか。

（両津市公民館長）

民間産業が行う講座の方が魅力があると答えている点である。これに対するパネラーの方々は参加者の「期待に応えること」「魅力ある事業・内容をすること」であると結ばれた。まさに同感である。公民館活動の浸透と成果により周りの実力がついて来たことを物語っている。

第35回 新潟県公民館

充実した大会

星野 賢次

今回は、第三十五回ということであり、また、社会教育法施行三十五年の節目の記念すべき年でもあり、大変充実した大会であったと思います。

「住民にとって公民館とは」と題した基調講演で、立教大学教授の林伸郎講師は、「公民館の出発点から始まり、公民館活動の基底は、人間尊重の精神と、国民の生涯教育態勢を確立させ、更には、住民の自治能力を向上させることである。しかし現代社会においては、これらを基本に通用しなければならない」と述べられました。

また、パネラーの貴重な話し合いの中から感じた点は、昭和55年の文部省調査によると、公的機関の行う学級、講座に41・8パーセントの参加希望がありながら、一方では参加者が減少しているという問題点があります。

期待に応える学習効果を生みだす方法として、吉川先生は事業計画を立てる際、4つのポイントを示されました。そのポイントとは

① みんなが参加しやすいかどうか
② 参加して楽しいかどうか
③ 効果があるかどうか
④ 良く知られているかどうか、

であります。

（燕市社会教育課 副参事）

アトラクションの豊年獅子舞

住民側の核になる人材を

平田 栄子

公民館大会の目玉は、なんといってもパネル討議であると思う。ところが、今回のパネル討議、時間がたりなかったせいもあろうが、一人一人のパネラーが発言するのが精いっぱいで、せっかくのパネラー間の討議が充分なされなかったのが残念である。

住民と公民館をもっと強くつなぎ、魅力ある公民館活動を行うためには、ネーミングやPRその他の考慮も大切ではあるが、なんといっても人材が必要だと思う。情熱を持って公民館活動を行う職員と、住民の立場で、なお公民館活動を理解し、住民と公民館との声を双方に伝え、実際に動いてくださる住民の側の核となる人材が必要なのである。

ところが、残念ながら、最近『リーダーシップをとるなら講座その他の参加も御遠慮します』という方が増え、一番大切な人材を捜すのが困難なのである。

パネル討議の最後に誠蹈町の方が言われた「吉田さん（吉田町パネラー）のような熱心な方が、いてくださったら、さぞわが町の公民館活動が発展しただろうと思う。と…」という言葉は、公民館活動に携わるすべての人の本音だったのではなかろうか。あの発言の後の割れんばかりの拍手がそれを物語っている。

（新潟市石山地区公民館主事）

よき市民の館

高井 タケ

会場の小千谷市民会館には、開会時刻相当前より県下各地から参集された関係者で満員、補助椅子を動員する程の盛況、大会に寄せる期待の大きさが肌を通して伝わってくる。

開会式に続いて表彰式、以前から面識のある村松ミサさん、塩井照子さんに、長い間ご苦労様いつまでもお元気でと、声援をおくる。

パネラーの方々の発言は、学習実践者、推進者としての自信と自負が感じられ興味深く傾聴する。

『公民館の施設は年々立派になっていくが、かつての青空公民館的活動に見られた気迫はなくなった』との石井会長さんのお話に、初めて社会教育に関わった時、『社会教育はナトコから、ナトコをかついで県下全域を巡回したもの』と、よく先輩から聞かされたことが鮮やかに蘇ってくる。

公民館は役所的になったと一部に言われながらも、矢張り公民館は、私達の身近かな学習活動の場として、よき市民（公民）の館として、生涯教育の推進と住民の自治能力向上のために、大きく貢献していることを再認識させられた一日であったことを感謝している。

（北魚沼郡湯之谷村 公民館運営審議会委員）

優良公民館表彰を受けて

山岸秋太郎

ちょっと出過ぎではないかと遠慮しながら、地区公民館長と市の社会教育課の方がたから言われるままに、現地区公民館長の代理として、今大会の表彰式に参列いたしました。

開幕前から、ステージ中央の雛壇に並んだのでさらに戸惑いを覚えながら、そのとき私の脳裏に去来したものは、公民館建設当時のことでありました。

優良公民館表彰という栄光の椅子に座らせていただけたのも、町や県の深いご理解と、公民館敷地や道路の拡巾に関係する地権者の方がたの協力。あるいは、四百万円を超える備品購入の費用負担を願った九十五世帯の積極的な熱意、さらに、地域事業所のご支援などのことを思いおこし、胸がいっぱいになりました。

新公民館が完成して、今までの不便さが一挙に解消し、今は公民館活動が年と共に前進していることの喜びをかみしめております。

公民館活動の究極的なねらいは、地域に発生するさまざまな問題を、みんなが知恵を出し合って、民主的に解決することであると理解しております。

このたびの誠に意義深い大会への参加を契機として、今後も体の続く限り公民館活動に力をそそぎたいと念じております。

（西頸城郡青海町高畑地区 公民館・前館長）

住民のためのもの

五十嵐アイ

私は、新潟市中央公民館使用者団体連絡協議会委員として、出席させて頂き、大変勉強になりました。

「住民にとって公民館とは」と題する林伸郎講師のお話しの中に、昭和二十四年社会教育法が施行され、公民館も法的裏付けを得て、国庫補助の道も開かれたけれど、公民館がお役所的になり、民主的でなくなって来るのはよくない、あくまでも住民の公民館でなければならない。と言われたことは、公民館使用者団体連絡協議会の存在意義をよく理解する上に役立ちました。

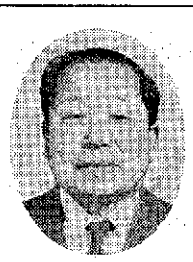
また公民館は、生涯学習の中心機関ではあるが、その分野は教育委員会の領域を越え、保健所、市民課、選管等相互連携の必要性が生じていること、公民館は、コミュニティセンター、婦人会館、中小企業会館等、他の社会教育施設を敵視するのでなく、共に活用し合って、社会教育を推進する態勢が大切、とのお話、大変印象的でした。

今新潟市の婦人達は、婦人センター設立運動に立ち上がっておりますので、特に関心を持ってお聞きしました。

（新潟市中央公民館 利用者団体連絡協議会委員）

大会は二日間の日程で

舟山栄三郎



県内各地からそれぞれの立場で参加される大会の意義からも、高速交通時代となった現今、今後は二日間の日程とし、その二日目は、せめて午前中だけでも分科会及び総括総会としてはどうか。

具体的には、分科会は、

(1)優良公民館の選考経緯等を具体的に示し、また被表彰公民館からは体験発表を願い、それに対して参加者からの質疑応答を行う。

(2)中央公民館、地区館及び分館とにそれぞれ分けて運営活動について討議を重ね集約する。

(3)開催地の教育長からの本大会のまとめを発表する。

もちろん、開催地の関係から宿泊を要する場合等の経費担も考慮しなければならないと思う。

私は、今大会のように聞き役的実態は改善してほしい。

総括的には今回の日程には一応の好感をもちながらも、公民館活動の重要性が今こそ大きく叫ばれているときでもあり「施設」「ひと」の充実強化、即ち一段と所政的基盤の確保のため、更に為政者に対し、認識を深めていただく努力をつづけることも本大会の任務の一端とも痛感した。

（小千谷市東小千谷分館主事）

新たな自覚で活動

高橋　昭一

公民館の歌でムードを盛り上げ、表彰式に続いて、立教大学教授林伸郎先生の川崎市市民館の例をあげながら、公民館の歩み、変化した住民の学習欲求、「住民にとっての公民館とは」の講演に参加者は熱心に聞き入り午前が終了しました。

午後のパネル討議は、それぞれの分野のベテランの方々だけに迫力があり強く心を打たれました。時間的に致し方がないとは言え、一般からの質問に心から同感する発言もあったが、もう少し参加者の声を聞く時間があってもよいような気がしました。

ともあれ、今回の初参加は有意義な一日であり、これから広い視野に立ち地域住民の要求、要望を生かし、ささやかながらも公民館活動を進めるために勉強と努力をし、住民一体となり公民館活動を推進しなければと思いました。

（中魚沼郡津南町社会教育課長）

公民館の地位と役割

本間　重蔵

公民館が発足して三十八年を経た今日、その性格や役割の明確化、焦点化が問われる時期でもあろう。そこで、ここに公民館の原点に立ちかえり、そのあり方、役割について二、三考えてみたい。

一、公民館は、先ずその地域社会の文化、研修、社交の場であり、教育文化、社会福祉、親睦融和、産業経済などあらゆる住民活動のセンターでありたい。そして、一、高齢者、成人、婦人、青少年などいろいろの年齢層の時代的思考とその意識、行動を考え、世相に応じた事業計画とその運営が望まれる。

二、行政系統の異なる諸機関や地域社会の各種団体の事業、行事の混在する中で、これを適正に調整し、連携し、常に公正な立場でリードする必要がある。

三、本館、分館、公民館類似施設、図書館、博物館、青少年ホーム、コミセンなど各種の施設がある中で、それぞれの役割を明確にする。一方、公民館は地域社会全体としての調和と統合を図る、中核的役割を果たすことが大切である。

最後に、公民館は明るく、住みよい地域づくりのセンターとして常に魅力のある、開かれた運営が望まれるとともに、地域住民も、行政当局もその存在意義と使命をよく理解する必要がある。そして公民館長はその首長、議会議長の次の座に据えたいものである。

（豊栄市公民館運営審議会委員）

「公民館の歌」に感動

諏佐　秀雄

この四月の人事異動で公民館勤務となった私にとって、初めての公民館大会の参加でした。

開催宣言のあと「公民館の歌」の合唱、初めて耳にする私は、レコードに合わせて口を動かすだけでしたが、後で歌詩を読み返してみると「郷土を興すよろこびも」「郷土に生きる楽しさも」「郷土にひろくゆかしさも」…公民館のつどいから…と地域における公民館の重要性が詩われており、公民館に働らく職員として、責任の重大さを感じました。

午後からのパネル討議は、六人のパネラーが「住民とともに歩む公民館の活動はどうあるべきか」というテーマで、それぞれの立場から意見を述べられました。いずれもすばらしい内容で、討議も活発に行なわれ、さすが公民館大会という感じがしました。

オブザーバーとして出席された「民主主義の道場と言われた青空公民館時代の気迫がなつかしい。原点に立ち返り、新しい時代に対応した活動を考えてほしい」と言われた石井県公連会長のことばが、特に印象に残るとともに、大変勉強になり有意義な一日でした。

（栃尾市公民館主事）

プロフィール

津川町公民館主事　横山　一磨氏（30才）

横山一磨（かずま）

昭和29年8月24日、東蒲原郡三川村東下条にて出生、父の仕事の都合（国鉄職員）で県内各地を廻る、小学校時代を砂丘で過ごした。そのせいか、スキーは指導員級の腕前？、中学校は三条、高校は加茂と野球の名門校で野球部員として活躍したスポーツマンである。

昭和49年7月、津川町へ採用、税務職員を振り出しに、昭和51年4月、教育委員会事務局学校教育係を命ぜられ、昭和53年から社会教育担当兼公民館主事となる。

身長173センチ、すらりとした容姿、なかなかの男前である。三条加茂当時見染めた美女と自出度くゴールインし現在は2女の父親である。この9月には待望の男児（未定）出生を夢見て職務に励んでいる町の施政方針の中に、津川町の社会教育と社会体育の振興が掲げられているが、若いスポーツマンとしての彼は、さまざまな実践活動を行って来た。特に社会体育に関しては、持てる力を十二分に発揮して、現在の津川町の社会体育を盛り上げたといっても過言ではない。

昭和55年社会教育主事の資格を取得し、今まで以上の力で広範囲な活動を展開、社会教育という職務の遂行に努力している。

家庭教育、婦人教育、青少年教育等々の事業の中で、特に昨年はへき地における青少年教育を重点に取り組んだ。地域子ども会の育成に手をかけ、地域全体で子どもを育てようと、日夜活動を続けた結果、その芽がようやくのびて来たようだ。文化面においては、古くから脈々と継がれている絵曲謡座の開設や民謡の保存に寧日なく、更に、今年5月には、津川町文化協会の結成とこのところ多忙な毎日である。

体が資本の職務柄、今後は十分に留意して益々の社会教育振興を期待する。

（津川町公民館長　佐藤寛治）

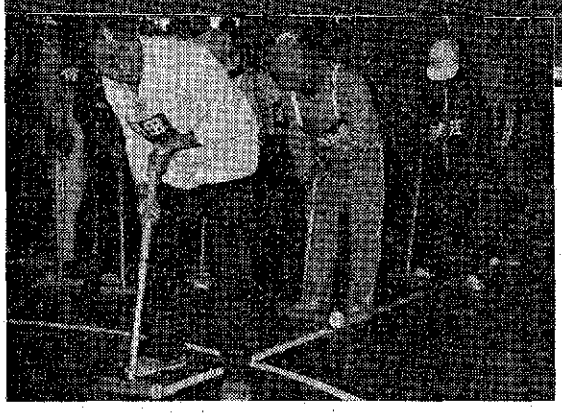
新生公民館繁盛記 (39)

公民館は花ざかり、これまでにすでに四十四館の公民館が登場。好評をいただいています。これからもどしどしご紹介します。

新築で高まる町民の関心と意欲

～集めるから集まるへ～

荒川町公民館全景



ゲートボール大会

荒川町公民館

一、町のあらまし

（59. 4. 1現在）

人口	11,493（男5,636 女5,857）
面積	36.76km²
ひろがり	東西 10.5km 南北 5.0km
世帯数	2,796世帯

このひろがりの町のほぼ中央に坂町駅があり、駅の近くを、国道七号線と一一三号線が交差し、国鉄羽越本線と米坂線の分岐点ともなっている。

駅を中心に市街地を形成し、駅から十分以内の地域に役場、商工会、農協、郵便局、体育館、銀行、郵信、信用金庫、高校、中学校、温水プールがある。

そしてそこに役場とならんで、保健センターとセットされた公民館が五九年四月開館した。

二、町のひろがり、各種の施設、からみて、公民館の位置は、まさに理想に近いものがある。集めるから集まる公民館への期待がもたれるところである。

三、五八年度まで、広域総合体育館を間借りしての公民館活動が、集会場所、講座の種類ともに、いろいろな面で制約を受けることの多かったなかで、部落運動会、ラジオ体操、日日運動を中心とする「スポーツで築こう明るい荒川町」の社会体育の面に重点のかかることは否めないことであった。

にもかかわらず、ここ数年、町民の多種多様な要望に応えて、老人クラブ、各種クラブ、講座等の充実にはめざましいものがあった。

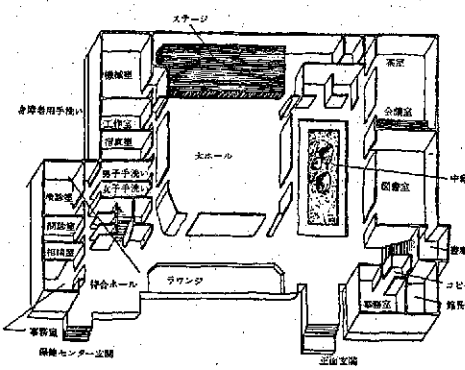
本年四月開館した公民館は、保健センターの利用、既設の施設設備の活用と相まって、ますます多様化するであろう町民の学習欲求に応え、住民の健康の増進、文化の振興に一層の努力をしなければならない。

幸い、派遣社教主事、公民館職員の増員、図書購入費の増額、老人生きがいセンターの改築、ゲートボールコートの新設等、人的物的にも、活動の基本的条件を整備しつつある。

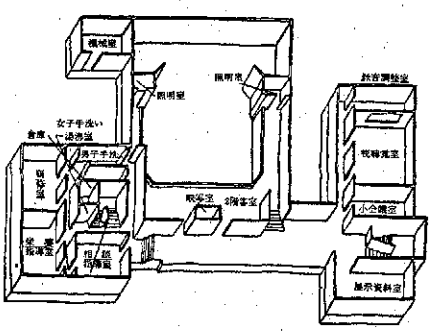
ハードな面の充実に押されることなく、新しい時代、新しい住民の要望に応える公民館の役割りはどうあるべきかを模索しつつがんばって行きたいと決意をあらたにしている。各位の御指導をお願いする次第である。

（公民館長 飯沼 好）

〔1F〕



〔2F〕



あの頃のこと

日記を読み返す (12)

松本十三雄

丸直先生との出合い

いつの間にか一年がたった。このシリーズの第一回に「後でのべる」としておいた、館長として仕えた丸山直一郎（丸直）先生との出合いを書いて終ろうと思う。

×

昭和十九年一月九日の夕方であった。私は、母校である見附小学校を訪ねた。明日は故郷を発って海軍に入隊するという日である。大東亜戦争も様相は厳しさを加えており、再び還ることはないであろうという思いがあり、永の訣れを告げるための訪問であった。校長はじめ顔見知りの先生がおいでになったら会って挨拶を…という気持もあった。

終戦の年の秋に焼失する校舎もその時は、六年前まで自分達が学んだ姿をそのままにあった。六年生のときの教室、自分の坐った位置の机に腰をトろすと、俄かに室一杯に彼の日のさんざめきが起こって感慨に陥らざるを得なかった。

教務室は空っぽであった。宿直の先生にでも…と思ったとき、隣りの校長室で何やら人の気配がする。校長先生がいらっしゃる。野沢庚平先生のはずであった。ノックして扉をあけると、そこには見知らぬ人が居たのだった。教頭先生かも知らぬ。不在の校長に代わって部屋の整頓でもしていられるのであろう、と思われた。

来意を告げて校長は不在かと問うたとき、その人は「私が校長です」というではないか。

野沢校長が昨年末（といっても二週間前）奇禍に遭われていたことを私は知らなかったのだ。

野沢校長は、なりの小さい、しかしいつもニコニコと誰にでも気さくに「よう」と声をかけてくださる人であった。ここにいる人は背も高く、ちょっと重々しい声で喋る、色黒の顔つきからトッツキにくい感じであった。

それが丸直先生との出合いであった。

昭和五十二年、見附市史編さんに関わることになり、必要があって当時の新聞を読み返した。野沢校長の後を襲うことになった丸直先生が、赴任前の地元あいさつに唯一日だけ来見されたその日のことであることを知った。奇遇というのだったなあと感を新たにしたことであった。

昭和二十二年三月末、学制が改まって、青年学校がなくなることになった。そこに指導員として奉職していた私は、既に笈を負うて上京することにしていたが、それまで二年間つき合った生徒達を思わないではいられなかった。

青年学級という名さえまだなかった。定時制高校の設定はきまらず、もしそれが実現しても青年学校普通科生はそこへの入学資格すら認められないのである。この子達は、小学校上級生のとき勤労奉仕にかり出され、緑な学習時間をもっておらず、かの墨塗り教科書の体験者であった。このまま世に放り出されていいものか、という思いがあったのだ。

町独自で何とか済って欲しい、それはオトナ達の役割りではないか、と町長に談じ込むことにしたのは、若気の至りであったとしても当人は大マジメであった。

町長が丸直先生であった。御意向で、民家の離れを借りておられた自宅へ伺った。

火のない部屋で二時間、いや三時間近くなったかもしれない。精一杯、日本の将来と青年教育のありようについて喋った。

談じ込みといったが、つまりはおねがいである。終始正座した仮だった。帰る時にシビレが切れて立ち上がれず、這って帰るハメになり奥さんに笑われたことを覚えている。

丸直さんは黙ってきいておられたが、おしまいに「うむ、わかった。まかしてくれるかね」とだけ言われた。

その結果が見附町公民館の誕生となり、その事業として勤労青年教養講座の実施となった。当時として破格の八万円という予算がつけられたのだった。

そんな縁があっての丸直先生から「帰って来い」と言われる。男の冥利とうけとったのであった。

×

公民館長としての丸直先生の姿にも触れたかったが紙数が尽きた。

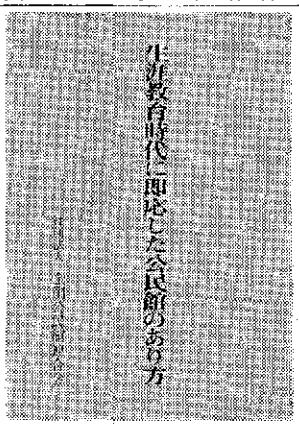
御好意に甘えて一年間もこの欄を占領させて貰った。市町村教委の実施に伴う公民館の混乱をはじめ、まだ書きたいことは沢山あるが、一応区切りをつけよう。

御愛読を賜わった各位に感謝したい。筆の走りの中で、現在の公民館関係者への批判や苦言になった部分もあろうが、社会教育は生きている限り現役なのだと自負する老童の言い草と寛恕されたい。

（前見附市教育委員会
社会教育課長）

新刊紹介

全国公民館連合会・編
「生涯教育時代に即応した公民館のあり方」



この本は、全公連が第五次専門委員会（委員長＝大東文化大学教授・田代元弥氏）を設置、二年余にわたって調査、検討の上、本年三月答申されたものです。

この答申は、二十一世を展望し、これからの生涯教育時代に、公民館がどのように対応していかなければならないかを、明示しています。

端的にいえば、この答申は「公民館のバイブル」であり、また、「この答申を読まずして公民館を論ずるなかれ」といっても過言ではありません。

従って、公民館の運営・事業に直接関与する館長、職員はもちろんのこと、運営審議会の委員全員からも、必ず一読をおすすめします。また、運営審議会の会議には必ず持参してほしい本です。

是非ともこの際、公民館ごとに一括お申し込みください。部数に限りがあります。お早目にどうぞ。

A5・四六ページ
一部　二五〇円（送料実費）
申込先　新潟市川端町二一九
新潟県公民館連合会
電話　〇二五二（24）六〇七三

あとがき

◇ 第三十五回新潟県公民館大会は、県下から六百数十名の多数の参加をいただいて成功裡に終了することができました。これは、開催地の小千谷市公民館を中心とした関係者の方がたのご協力が結実したものです。

◇ 何事によらず大きな仕事は、綿密な計画、周到な準備の段階から、役割分担、協力体制など総合的な組織力・実践力が必要であります。この点、小千谷市の体制と取り組みは〝すばらしい〟の一語につきます。改めて関係の皆様方に、厚く御礼申し上げます。

◇ 今大会に参加された方の中から、「参加の記」をお寄せいただきました。本号と次号の二回に分けてご紹介いたします。原稿をお寄せくだされた方がたに感謝申し上げます。

◇ 見附市の松本十三雄氏から一年間、十二回にわたって「日記を読み返す」をご執筆いただきました。公民館草創期の苦労話、エピソードを楽しく読ませていただきました。また機会を見て、健筆にお目にかかりたいと存じます。有難うございました。

◇ 次号から、村上市の小杉説次郎氏からご寄稿いただく予定です。ご期待願います。

（真）